

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102156		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	くまもとケアセンターそよ風 グループホーム		
所在地	熊本市東区山ノ内3丁目9番27号		
自己評価作成日	平成31年2月9日	評価結果市町村受理日	平成31年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様の皆様が今日まで歩んで来られた人生や関わった人達との繋がりを大切にしています。ご家族様や医療機関と協力しながら、楽しく過ごして頂ける様職員一同努力しています。地域との連携では、校区内の事業所間で包括を中心に連絡科を立ち上げ、事例検討会を来年度より、開催予定でございます。また、地域行事への参加を行い、利用者様、他事業所との繋がりを深めるように努め努力を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設よりの経年、管理者変更など職員体制の変動がある中で、階下にあるデイサービスでの陶芸教室や小学生のボランティア(合唱)等に参加する等楽しみある生活を支援している。また、今年度は地域での生活拡充に努力されたことも地域の生き生きサロンへの協力参加や、RAN伴への参加等に表れている。100歳筆頭に平均年齢88歳という現状と、2階がグループホームという立地条件もある中で、入居者の思いに応え、誕生日の個別外出等ケアに満足してもらうことを念頭にした取り組みや、看取りケアの実践は家族の感謝の言葉に繋がっている。職員の質の向上へ向け同施設全体での勉強会等(毎月)等の連携が、職員の定着に繋がるものと大いに期待したい。今後も、地域の中の施設として認知症ケア発信源としての活躍を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を職員が把握し、心に留める事が出来る様にする為、目に入り易い位置に提示し共有化している。	会社理念とともに、開設時からの理念を継続している。管理者は、職員体制もある中で、入居者にはケアに満足して頂きたいと、雑なケアを行わない事等職員とのコミュニケーションを図りながら、理念の実現に努めている。また、地域密着型事業所として校区内福祉事業とともに“RAN伴”に参加している。	ホーム理念の掲示により意識付けや法人理念は朝礼時に唱和されている。新年度に当たり、理念を基にした振り返りや、理念がケアに具現化できるような話し合いの場を検討いただきたい。職員が理念を念頭に置きながら日々のケアに直結されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加を行い地域との触れ合う機会を設けられる様工夫している。地域の事業所の会議などにも参加し地域行事の計画などを行っている。	校区内福祉事業所との交流(RAN伴)や、階下のデイサービスでの小学生との交流(合唱)、保育園児や高校生の傾聴ボランティア等入居者の交流する機会となり、地域のいきいきサロンへの参加しながらホームの啓発に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の方とコミュニケーションや、認知症予防について意見交換を行っている。また、今度も情報の発信や話題の提供等を実施していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で委員の皆様、ご家族の皆様から貴重なご意見、ご提案を頂き職員間で共有している。また、会議の中で利用者様状況、事故報告等を報告し意見を頂いている。	定期的開催する運営推進会議は、事故報告や入退居、人事異動、行事予定等の説明とともに、身体拘束や虐待については資料を基に説明し、意見交換が行われている。運営推進会議の参加者が増える方策として近隣事業所との合同開催が検討されている。	参加家族が代表2名であり、他の家族にも呼ぶかけることで情報の共有化としたり、自治会長への参加を依頼されることで更に地域への発信源となるであろうと期待したい。また、参加者にホーム内や入居者の現状を見ていただく事で、視点を変えた意見や認知症ケア啓発の一環とされることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への事故や人員配置についての相談や、消防署への勉強会用資料等の相談を行い、適正なサービス提供の為に指導を頂いている。	事故報告や人員配置(人員基準)相談等に出向ながら行政との友好な関係を築き、介護相談員制度の利用をケアに反映させている。また、地域包括支援センターへの居室状況発信や、介護認定更新時に立ち合い情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを基に、実施が必要と思われるケースが発生した時には、出来る限り拘束の必要ない計画を福祉用具業者と相談したりしながら、代替え案を採用する様努めている。	同施設全体で、身体拘束・虐待防止検討委員会による話し合いや研修により意識を強化させている。1階は不審者対策としての電子錠により安全対策としている。また、家族には入居に際し拘束のないケアを行うと説明しており、ナースコールが押せない状況には転倒防止として人感センサーやセンサーマットを使用しているが、行政への相談とともに、家族に説明しケアプランに上げている。管理者は、職員の言葉がけである「待つて」もスピーチロックの一つと捉え、入居者の皆さんがどう思われるかを考え、職員同士が常に注意喚起するよう指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の項目に盛り込まれており、職員が再確認する機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方と関わりをもっておられる司法書士の方とのやり取りの中で、実践的に制度について学んだり、お尋ねする機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な説明を個別に時間を設けて行うのは勿論、ご本人様やご家族様の要望やご意見を聞くことで、その後のケアにもつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時に気軽にご要望やご意見を頂ける様な雰囲気作りに努めている。また、ご意見番の設置、職員様に苦情相談ノートを設置し、情報の共有化に努めている。	玄関先に苦情シートと意見箱を設置している。家族には入居時や訪問時要望等のような事でも申す出て欲しいことを説明しており、口頭での要望等の家族の声は日々の記録の中に記し共有化としている。また、年1回の家族会を問題提起の場として、運営推進会議での内容や情報、介護保険の変更などを説明し質疑応答を行っている。入居者には日々の生活の中で、したい事等を投げかけ、外出等に反映させている。	家族からの意見や要望等を聞き取りし、ケアに反映したいと意欲的であり、家族向けのアンケート等も一案であろうかと思われ、全員で検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議、全体会議の中で意見交換の場を設けている。	全体会議(法人3事業所)の中で、部署毎の運営等を話し合うとともに、毎月のホーム内(部署会議)で職員の意見等を聞き取りしている。また、管理者は日々ケアに入りながら、職員とのコミュニケーションを図り、小さな事案まで話し合っている。職員も何かあれば管理者に相談し、案件によってはセンター長による面談を行う等職員の意見や相談に応じる等多くの機会作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長との面談や職場環境を整える為の設備点検や補修を行っている。また、日々の会話の中から管理者は職員の気持ちをくみ取れる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修、社内研修を参加を指名して参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域会議の出席を積極的に行い、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス実施前に必ずご本人やご家族との面談(実態調査)を行い、細かい要望や特性の把握に努め、介護計画に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施前にご家族様の困っている事や不安に思っている事を傾聴し、施設として協力できる事を誇張せず伝える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、認知症型共同生活介護についてご説明させて頂き、ご本人、ご家族の思いも大事にしながら、他のサービス利用が望ましいと思われる場合はご提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生を大事にしながら、入居者様の方にも出来る所は手伝って頂く事で積極的に生き生きと楽しい生活を送っている様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、報告や相談を行い情報を共有する事によって互いに誤解する事なくご本人を支えていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人の面会(以前ご近所付き合いがあった方)等もご家族様とお話ししながら積極的に受け入れを行っている。	家族や友人の訪問、家族対応による行きつけの美容室利用、法要参列、自宅へ帰って見られる方等もある。一方で県外出身や遠方からの入居等馴染みの環境への外出も難しい面もあり、日々の会話の中で馴染みの人や場所を引き出しながら懐かしむ場面を作りだしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が上手な入居者の方にも協力して頂きながら、職員が仲介等を援助しレクリエーション等を行い皆で楽しく過ごせる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院への転居や転院の際は、職員が折りみってお見舞いや面会に行くことでその関係が途切れない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思を優先した生活を送って頂ける様、いつでも相談に乗れる様な雰囲気作りに努めている。また、日々の会話やご家族様からの情報を頂きながら、困難な場合は職員で検討したりしている。	職員は、入居者の主体な生活を支援したいとして、日々の会話の中での聞き取りや、選択できるような声掛け、したいこと等を引き出し、買物や遠出(空港での外食)等外出支援に繋げている。また、意思表示・意思疎通困難な入居者には家族の情報などを基に話し合い、ケアに反映させている。入居者が何をしたいのが不明な時等、極力入居者の思いに寄り添いたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居受け入れ前の面談時や入居された後にご本人やご家族にお尋ねしながら状況把握に努めている。また、面談等を介護記録に残し、職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様がこれまでにされてきた生活のリズムを大事にし、時には新しい試みも提案しながら最良の環境を作る様努めている。また、気が付いた点は記録に残し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は職員間での話し合いを行っている。また、ご本人やご家族とも日頃のやり取りの中で、思いを聞かせて頂きながら、ご本人の気持ちが反映されたプランの作成に努めている。	本人の思い求めていることを、本人の言葉そのままに記載し、個々のニーズに対する長・短期目標6ヶ月毎に見直している。また、退院後の日常生活サポートとして担当医や訪問看護、介護職員やケアマネジャーとの話し合いを基にしたプラン等現状に即したプランである。入居者の思いに立った役割や楽しみの継続等もプランとして策定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画以外の内容も記録に残し、細かい発見や工夫をするのに役立っている。また申し送りや会議の中で職員間の情報共有を行い入居者の支援に役立てる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を大切に、実施可能な部分に関しては実施している。また、何らかの障害により実施困難の場合はまずどうすれば実施可能かを検討し、出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等へ参加し、繋がりを深める様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は施設の連携医に限らず、個々の主治医と連携が取れる様努めている。また、症状によってはご本人、家族と相談しながら専門医への受診を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医であるが、現在は殆どの方が協力医による往診と、家族での対応を基本とした希望の医療機関への受診が行われている。主治医とは日頃から連携を図り、適切な医療支援が受けられるようにしており、専門医の受診についても、家族と相談しながら取り組んでいる。口腔ケアについては、昼・夕食後の歯磨きや、必要に応じて義歯管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時のみでなく、少し気になる時等いつでも相談出来る様な関係作りに努めている。また、かかりつけ医ごとに連絡先が解りやすい様相談先電話番号等の掲示を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際は直ぐに入院先の医師や看護師に、日常生活動作や既往歴等の情報提供を行っている。また、入院中にもお見舞いや電話にて状況確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化においては、ご家族様や主治医とよく話し合い、助言や指示を頂きながら対応を検討している。	看取り支援に関する指針について入居時に説明を行い、その時点での家族の意向を確認している。また、看取りに関するマニュアルの作成と、全体会議の中で計画に沿った研修会を実施している。この1年間で1名の方の看取りが行われており、ホーム職員への取り組みに家族から感謝の言葉を受けている。	今後も急変時の対応を含め、高齢の入居者を支えるホームとして必要な研修の機会を持たれることを期待したい。また、日頃の関わりを大切に、ホームに出来得る最良の時間を提供していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応として、管理者、訪問看護ステーション、ご家族様への連絡をスムーズに行える様職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最寄の消防署からの立ち合いでの避難訓練を行ってご指導やアドバイスを頂いている。また、運営推進会議の中で議題として扱い、自然災害時の緊急連絡先の把握にも役立っている。	今年度は夜間想定と避難、自然災害を含んだ3回の訓練を実施。防災訓練には家族にも参加を呼びかけ、運営推進会の中に組み入れる等、工夫して実施している。厨房で備蓄リストを作成し、確保しており、職員間での周知が図られ、居室入り口には避難確認のラベルが貼る等工夫している。	居室内のカーテンについては、防災機能があるか早急な確認が必要と思われる。また、掃除の際はコンセントの埃など今後も細かに確認しながら行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけご本人様の傍らで声掛けを行っている。排泄等の確認は外に漏れない様配慮している。また、職員間で気になった言葉等は注意し合う様心がけている。	入居者への声掛けや言葉使いなど、尊厳やプライバシーに配慮することを会議などで共有し、気になることは職員間で注意し合える環境に努めている。呼称は基本的に苗字で対応し、同性介助についても要望に対応している。居室入室時はノックを徹底し、身だしなみやおしゃれについても季節に応じた衣類や好みの衣装、お化粧品、美容室の利用など家族の協力も得ながら取り組んでいる。高齢の入居者にとっての誕生日は、本人・家族にとっても喜びの日であり、基本的に当日お祝いの会を開いている。	食事中の料理番組など入居者は調理方法や食材など関心を持って視聴される方もあり、チャンネルの変更については、入居者の状況を見たり、確認をすることが望ましいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい様、職員は目配り気配りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的な希望にも出来るだけ対応出来る様、職員は柔軟な業務分担の振り分けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から入居者様の身だしなみには気を配っているが、誕生日等特別な日は特にご家族にも相談しながら、その方らしいおしゃれをできる様援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等、季節感を感じて頂ける様配慮している。また、入居者の方にも小さな作業でも可能な限り手伝って頂いている。	現在ホームでは2か所の業者から調理済みや、ホームで温めて提供する食事支援となっており、主食の米飯のみを炊き、おかゆなどを作っている。入居者が調理に関わる機会はないが、盛り付けやおしぼりの準備、おやつ作りなどを企画し、食への関わりを持ってもらえるようにしている。この夏は熱中症対策も兼ね、梅干し作りに取り組みみたいとしており、入居者の出番にも繋がり実現が期待される。	食事の際、テーブルと椅子の高さが本人に合っているか、確認されることも必要と思われる。入居者の中には「今日の料理は何かわからない」と発せられる方もあり、介助をしながらも周囲を見渡し、メニューや食材の紹介など、食を楽しめる環境作りに期待したい。また、エプロンについては、首に負担の無い使用が望ましいと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態にあった食事量や食事の形態に心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回の訪問歯科による口腔ケア指導の実施、また、毎日の義歯洗浄、うがい等を行って口腔内清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンの把握に努め、オムツ使用を出来るだけ抑えていくようにしている。	排泄チェック表により個々のパターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。現在は布やりハビリパンツ、パットの併用をされる方が殆どであり、夜間テープ式おむつを使用の方も、日中はトイレへ誘導している。夜間失禁が増えた場合は検討を重ね、本人の了承を得て排せつ用品を変更する等個々の状況に応じ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤調整、水分強化等をそれぞれにあった形で行い、訪問看護ステーションとも相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けは行いが、希望されない時は無理には実施せず、翌日等入りたい時に入ってもらえるようにしている。	入浴は3日空けないことを基本とし、午前・午後の希望に応じながら週2～3回の支援に取り組んでいる。週1～2回の方には着替えや清拭を取り入れ、拒否のある場合は、職員が声掛けを工夫しながら清潔保持に努めている。身体状況からシャワー浴が中心になられた方もあるが、可能な限り湯船に浸かってもらえるようにしている。入浴は入居者と職員が1対1になれる絶好の機会であり、昔話を聞いたり、入居者の質問(どこに住んでいるの？何歳なの？など)に応える等入浴時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や夜間の睡眠時間をふまえて静養対応を検討したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更等は確実に申し送るようにしている。また、個別のファイルに薬剤情報も整備、保管し確認しやすいようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節感を味わうための行事を毎月計画、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出行事、ご家族様にご協力を頂いての外出、外泊を実施している。	桜や紫陽花など併設するデイサービスからの開花情報により花見に出かけている。昨春は家族会を兼ねて花見の後、バイキング食事が開催されている。身体状況から全員で出かける事は難しくなっており、買い物、誕生日の職員との1対1でドライブ(飛行機発着を見たり食事)など、個別や数人での外出を支援している。管理者は気候が良くなれば、外出の機会をもっと増やしていきたいとしている。	家族との馴染みの美容室への外出、正月や法事への外出などが行われている。今後も、地域資源の活用や家族の協力を得ながら、入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に職員が行い、収支表等でご家族様にご報告している。少額ではあるがご家族様了承を得て持っておられる利用者様もおられ外出時には実際にご自分で支払出来るよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様にご了解を頂き、外からかかってきた友人の方からの電話に実際に出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前の名札の壁、ユニット間ホールには季節に応じた装飾をしている。	2階に配置されたグループホームは、両ユニットの中央にある事務所前に季節の置物や飾り物などを施し、入居者や来訪者に目を止めてもらえるようにしている。テーブルやソファは入居者の身体状況や相性なども考慮して配置を検討、空調もその時々で確認している。加湿器を設置しているが、感染症対策の強化として、性能の高い製品を検討している。午後の時間をゆっくりリビングで過ごすユニットや誕生会により笑顔の誕生者や祝いのケーキを全員で楽しむユニット等各ユニットが一軒の家として、余暇活動などを工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでの配席には注意し、いつでもくつろいでいただける様、ソファ等を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様の愛用品等を持ち込んで頂き、その方らしい生活が出来るよう努め、ご家族様にもお願いしている。	入居は一番の不安要素であるとして、在宅からの入居であれば、部屋で使われていた物があれば落ち着かれることを伝えている。テレビや椅子、温度計や小物入れ用の缶箱、着慣れた衣類など家族の協力により馴染みや必要な品が持ち込まれている。中には安全面や物が無い方が落ち着かれるなど個々の状況により、比較的スッキリとした居室も見られる。「私の部屋へどうぞ」と、案内し部屋の中の品について説明くださる方もあり、本人にとって居心地の良い環境となっていることが窺える。	居室入り口には季節の飾り物(訪問当日は節分の壁面)などを掲示し、和やかな雰囲気を作っている。今後も家族の協力を得ながら、本人にとって居心地よく過ごせる居室環境の整備に努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時には転倒に注意し、廊下には障害物を置かない様心がけている。また、少しの言葉があると理解が出来るような場面(トイレの場所など)では掲示を行い入居者様が混乱されない様努めている。		